特定利用港湾指定、大軍拡反対

高松市で6日、香川革新懇と九条の会かがわは、「高松港の軍事利用に反対、大軍拡予算は要らない、国民生活へ向け」のテーマで、6の日の行動をしました。

石田まゆ衆院香川二区候補は、金権腐敗や戦争する国づくりなど自民党政治の行き詰まりを指摘。「裏金に関わった議員の半数が処分されたが、5年で500万円以下は処分されないという基準も謎だ。離党勧告や党員資格の停止など処分の内容はとても甘く、一般企業の会社員ならば職を失い責任をとってお金を返還するなど、もっと厳しい処分になる。企業団体献金の禁止と、裏金問題の真相解明に証人喚問が必要だ」と訴えました。

また「経済秘密保護法が衆議院の委員会を通過し、個人情報を国が調べ管理するという中身は憲法違反だ。過去の政府見解を反故にしてイギリスやイタリアと戦闘機の共同開発をし、第三国に武器輸出ができるようにする、他国の戦争に加担する暴走した自民党政治を終わらせて、国民の声が届く政府に変えていきましょう」と強調しました。

そのほかに林英二新社会党香川県本部委員長、成合美範社民党香川県連合副幹事長がリレートークをしました。

6の日行動で訴え

香川の水道の話⑤
いのちの水を守る会 香川
世話人　堀井　ゆずる

☆民営化とは

水道事業経営の形については、誰が運営しているかが重要な視点です。公（自治体）の場合と民間の場合とがあり、それによって、経営の方向がずいぶん違います。

今の日本では、運営の基本は（宮城県を除いて）各自治体が担っていますが、業務の一部を民間に委託していてしかもその委託程度はさまざまです。業務の重要部分委託から、運営権売却までを含むいろんな形の変化を民営化と呼んでいます。

☆民営化の問題点

民間企業は、営利本位であり、利益を出す基本は、費用の圧縮と収入の確保です。その為、公営にはない問題点があります。

①必要な設備投資を怠る。例えば、災害予防、水質維持関連設備。②低い労働条件。③ぎりぎりの配置人員。この為、災害時における応急体制や他自治体への応援体制が取れない。④水道料金の値上げに走り易い。⑤下請け工事を割高な関連会社に発注する。

また、公営に比べ情報開示が不充分になり、住民に中身が分りにくくなります。

☆世界で進む再公営化

このような民営化の失敗を受けてフランスのパリ市は2010年、今まで民間のヴェオリア社とスエズ社が運営していたのを公営化しました。トランスナショナル研究所の調査では、2019年時点で世界36ヵ国311件の再公営化（新しい公共サービス創設を含む）があったとのことです。

☆香川県企業団の現段階

宮城県は、民間10社が出資した新会社に運営権を売却しましたが、この会社の中核企業は、ヴェオリア・ジェネッツ社です。前回でも触れましたが、ヴェオリア・ジェネッツは香川でも企業団の業務委託を受けています。

企業団は、「コンセッション方式（民間が運営権を得て水道料金を直接受け取る）の導入など民営化は予定されていない」と言っていますが、ウォーターPPP（運転・維持管理、設備更新工事を一体で委託）については、まだ明言していません。

施設の運転・維持管理の更なる委託など民営化につながる動きは、引き続き監視して行きたいと思います。

団体紹介》香川民主医療機関連合会

人々の困難あるところ民医連あり

私たちは、香川民主医療機関連合会、略して香川民医連です。1953年に誕生した全日本民主医療機関連合会に加盟しています。全国47都道府県で地域の皆さんともに力を合わせて命に寄り添う医療介護活動を続けています。「いのち」「民医連綱領」「日本国憲法」を大切にし、人々の人権が守られる社会の実現にむけて活動しています。【3面に】

【2面から】　ここ4年間に及ぶコロナパンデミックのなかで、私たち医療機関・介護機関は「断らない」「まず診る」を合言葉に、一人一人のいのちに寄り添うという姿勢を貫いてきました。コロナ以降の景気の停滞、上がらない賃金、深刻なジェンダーギャップなどの状況下で、心身を病み支援を求める人々のために日々寄り添うとともに、より良い医療制度・社会保障制度を求めて、国や自治体に働き掛ける取り組みを行っています。最近では、「高校生までの医療費無料化を」「マイナ保険証の強要と健康保険証の廃止ストップ」「国保保険料の引き下げ」「介護保険制度改悪の中止」など、他団体の皆さん、医療生協の組合員さんとともに取り組んできています。

また、私たちケア労働者はジェンダー差別を背景として社会的地位や労働条件が極めて低い状況におかれています。処遇改善を求める取り組みにも力を入れています。

人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ることも大切にしています。よい医療、介護、福祉をめざすわたしたちにとっての一番の敵は、戦争政策です。毎週月曜日のお昼の時間に平和病院前で定例のウクライナ・ガザを支援するスタンディング行動を続けています。

在日米軍基地が集中する沖縄の現状を学び連帯する「辺野古支援連帯行動」を全日本民医連で定期的に行っていますが、私たちも結集しています。また、今年も6月から始まる「核兵器をなくすための平和大行進」には、職員への広範な参加を訴えていく予定です。

香川で「人々の困難あるところに民医連あり」をめざして行動しています。皆さんのご支援、ご協力よろしくお願い致します。

【大西和子】

第2回中央委員会総会から戻り、さらにパワーアップして四国中を駆け回っています。今週も徳島市や四国中央市で新入党者を迎えました。つどいの参加者が話し始めると、もうどうにも止まらないというのが今の状況です。国民は本当に怒っています。それは裏金問題だけではありません。これまで続いてきた悪政への怒り、それをどうにかしたいけれどどうにもならないもどかしさが爆発します。

ある方は「何をやっても報われない」と暗い顔をして集いに参加されました。参加者が日頃から考えていることをみんなで話し合い、日本共産党はこう考えるという政策や変える方向をお話しすると、帰り際には打って変わって明るい表情で「希望が見えました」とキラキラした表情がとても印象的でした。

30代のシングルマザーとも出会いました。「子育てをする前は自分には政治なんて関係ないと思っていたけれど、やっぱり政治なんだ！」と気がついたという参加者に、「気づいたら変えなきゃね！いっしょに変えよう」と呼びかけると、色々悩んだけれど「やってみます」と入党を決意してくれました。

くしくも岸田首相がアメリカに「国賓」扱いで、しっぽを振って出かけている真っ最中。首相は「共同声明」で米軍と自衛隊を切れ目なく統合していく指揮・統制の枠組みの強化を表明しました。こんな政治は許せない！四国中央市でも演説会に参加してくださった60代の方が、訴えを聞いて入党を決意してくれました。

勇気りんりんエッセイ
四国ブロック国政対策委員長　白川よう子

空と風と星と詩　千葉浩三

「死ぬ日まで天を仰ぎ、一点の恥いることもないことを」―。と始まる序詩に魅了されながら、香川市民劇場例会で青年劇場による「星にかすめる風」の運営に関わりました。朝鮮民族詩人である尹東柱（一九一七年～四五年）は、日本へ留学中に治安維持法違反により逮捕され獄中死しました。

演劇は文学や音楽の力により過酷な状況下でも人間性を探求するシーンが展開されました。朝鮮語による詩の朗読は美しく感動的であり、日本が隣国の人権や母国語、命までも奪ってしまった過ちの重さを感じました。【4面に】